

第 3 回 浜田市総合振興計画審議会議事録

日時	令和 8 年 8 月 19 日（水） 18 時 30 分から 20 時 35 分まで
場所	浜田市役所 本庁舎 4 階 講堂 ABC

発言者	議事内容
-----	------

▽開 会

林会長	ただいまから第 3 回浜田市総合振興計画審議会を開催します。 本日は次第に沿って進行し、午後 8 時 30 分の終了を予定しています。委員の皆様におかれましては、忌憚のないご意見をいただきますようお願いいたします。 それでは、本日の委員の出席状況及び配布資料の確認について、事務局から報告をお願いします。
事務局 (政策企画課長)	本日の委員の出席状況及び配布資料について報告します。 はじめに、一般社団法人浜田青年会議所から審議会委員の変更依頼があり、このたび推薦いただいた白瀬光委員に本日から参加していただいています。白瀬委員から一言ご挨拶をお願いします。 【白瀬委員の紹介】 次に、本日の委員の出席状況についてお知らせします。 本日の出席委員は 21 名、欠席委員は 4 名です。よって、審議会条例で定める会議開催要件である過半数を満たしていることをご報告します。 【配布資料の確認】

1 議題

(1) 第 2 次浜田市総合振興計画後期基本計画について

① 第 2 次浜田市総合振興計画後期基本計画等の進捗管理について【資料 1～6】【参考資料 1】

林会長	第 2 次浜田市総合振興計画後期基本計画等の進捗管理について、事務局から説明をお願いします。
事務局 (政策企画課長)	【資料 1～6 及び参考資料 1 について説明】
林会長	説明ありがとうございました。時間も限られていますが、事前に質問された方で重ねて質問がある場合、また、事前に意見を出せなかったものの、この場で申し述べたいことがある場合は、ご発言ください。
長藤委員	前回の進捗管理に関する意見と回答について、なかなか今この回答に関してすぐに質問することが難しいため、後日改めて考えた上で意見を提出することは可能でしょうか。
林会長	長藤委員からいただいている意見は、次期計画を見通したものが多いと認識しています。本日は進捗評価については決定したいと考えていますが、それ以外の部分

	については、追加で質問や意見をいただければと思いますが事務局はそれでよろしいでしょうか。
事務局 (政策企画課長)	追加質問がありましたら、まず事務局にお知らせいただければ、対応について検討させていただきます。
林会長	改めて何か委員からございませんか。 まとめていただいている委員の意見と市からの回答を見ると、次期計画に向けた意見も多く寄せられていると受け止めています、いかがでしょうか。 【意見なし】 そうしますと、このたびの第2次浜田市総合振興計画後期基本計画等の進捗管理については、重大な問題はないという理解でよろしいでしょうか。 【異議なし】 それでは、これが9月議会に提出されることになります。いただいた意見については、ぜひ次期総合計画に生かしていければと思います。
(2) 第3次浜田市総合振興計画について ① 前回の振り返り及び全体スケジュールについて【資料7、8】 ② こどもワークショップの結果概要について【資料9】 ③ 市民アンケートの結果及びウェルビーイングの考え方について【資料10】	
林会長	続いて、資料7から資料10までを一括して事務局から説明いただきます。
事務局 (さとゆめ)	【資料7～10について説明】
(質疑応答) 資料7～10について	
林会長	説明が終わりました。委員の皆様から質疑はありませんか。
長藤委員	幸福度を測るアンケートは、他の自治体でも取り上げられているものなのでしょうか。
事務局 (さとゆめ)	点数で幸福度を聞く調査については、他自治体でも行われています。また、デジタル庁が実施している調査にも幸福度を測る設問は含まれていることが多いです。 一方で、前野氏の4つの因子を用いたアンケートについては、私たちが確認した範囲では事例は多くありません。ただし、幸福学として確立された学問的背景があり、科学的にも一定のエビデンスが担保されているものとして論文等にも示されています。 今回、前野氏の4因子とデジタル庁が提唱している幸福度指標との関連も確認したところ、比較的強い相関が見られたため、幸福度を測る尺度としての妥当性も一定程度あると考えています。
林会長	念のため確認しますが、4つの因子に付けられている名称は、前野氏による命名という理解でよろしいでしょうか。総合振興計画の中に細かな説明を入れるかどうかは別として、幸福度指標の設定方法については、できるだけ分かりやすく説明する必要があると思います。

事務局 (さとゆめ)	「やってみよう因子」「ありがとう因子」「なんとかなる因子」「ありのまま因子」は、前野氏による命名です。計画に掲載する際には、市民に分かりやすい表現となるよう説明を検討します。
林会長	委員の理解のために確認します。幸福度指標のアンケートについては、資料 10 の 9 ページにある設問に対して、例えば 4 段階くらいの評価で回答してもらうというイメージでよろしいでしょうか。
事務局 (さとゆめ)	資料 10 の 9 ページに掲載しているものが実際の設問項目で、今回市民の皆様にお答えいただいた内容です。例えば「やってみよう因子」であれば、「私は有能である」といった設問について、0 点から 7 点で評価いただく形です。それぞれの因子に関する設問の平均点を取り、各因子の得点として計算しています。
米谷委員	資料では、浜田市の幸福度が全国平均を下回っていると記載されていますが、どの程度下回っているのでしょうか。
事務局 (さとゆめ)	前野氏が全国約 1 万 5 千人を対象に実施した調査の全国平均と比較しています。 「やってみよう因子」は全国平均 4.46 に対して浜田市 3.78、「ありがとう因子」は全国平均 5.95 に対して浜田市 5.50、「なんとかなる因子」は全国平均 4.35 に対して浜田市 4.03、「ありのまま因子」は全国平均 4.75 に対して浜田市 4.57 です。 いずれも 7 点満点であり、最も高いのは「ありがとう因子」ですが、全国平均と比較すると、1 ポイント未満の範囲で下回っている状況です。
樋山委員	小学生から高校生、成人にかけて幸福度の点数が下がるということですが、それ自体に何か問題があるのでしょうか。一般的に考えて、子どもから大人になるにつれて社会に対する問題意識が出てくるため、ある意味で幸福度が下がることは考えられます。全国平均と比べて、浜田市で特に顕著な下がり方をしているのかどうか確認したいです。
事務局 (さとゆめ)	現時点では、子どもアンケートに関する全国平均との比較までは行っていないので、今後対応したいと考えています。ご指摘のとおり、年齢が上がるにつれて幸福度が下がること自体は、必ずしも悪いことではないと考えています。大人になるほど社会や現実に対する認識が深まるため、一定程度幸福度が下がる傾向はあり得ます。今後、全国平均との比較も含めて改めて整理します。
村岡副会長	大学生へのアンケートについて、夏休み明けに改めて実施するという説明がありましたが、休み明けは 10 月になってしまいます。そこからアンケートをして、スケジュール上、パブコメ自体が 11 月中旬くらいからですが、それに間に合うのか確認したいです。アンケートを授業等ですとなるとバランスとか、事前にどの授業でやるとか調整ごとがあると思いますが可能な限り協力できたらと思います。 また、全国平均との比較も大切ですが、現時点で浜田市の基準値が把握できたこと自体が重要だと思います。その上で、資料 10 の 5 ページに示されている各因子と関連する要素について、総合振興計画の施策としてコントロールできるものと、そうでないものを整理する必要があると思います。 例えば、サードプレイスを増やす、充実させるといった施策を打っているか、それが幸福度に効いているかという観点です。今後、資料 11 の内容や計画への掲載内

	容を整理する中で、幸福度の各因子と浜田市の施策がどのように結びつくのか、またそれをどのように評価するのかを説明いただけると、この指標を使う意味について共通理解が進むと思います。
事務局 (さとゆめ)	大学生アンケートについては、急ピッチにはなりますが、計画へ反映できるよう実施する方向で進めます。 また、幸福度と施策の紐づけについては、今回示した因子は速報値に基づくものであり、今後変わり得る前提ではありますが、例えば自己肯定感、精神的健康、地域の雰囲気などの指標に対して、各施策がどのように寄与しているかを星取表のような形で整理できればと考えています。そうすることで、どの施策がどの要素に関わっているのか、全体像を示すことができると考えています。
事務局 (政策企画課長)	資料では、前野氏の全国平均と浜田市の状況を比較して示していますが、全国平均を上回っているか下回っているか、だけで評価するものではないと考えています。今回初めて市民アンケートにより浜田市の現状を把握し、基準値を示すことができたことに意義があります。 その上で、各因子に結びつく施策を整理し、どの取組によって市民の幸福度を高めていくのかを計画の中で示したいと考えています。大人になるにつれて満足度が下がることも含め、さまざまな要因を踏まえながら、こういった施策と結びつけて取り組むかを今後できるだけ整理し、計画に示していきながら、満足度をいかに上げていくかということを考えていきたいと思っています。
④ 第3次浜田市総合振興計画素案①について【資料11】	
林会長	続いて、資料11「第3次浜田市総合振興計画素案①」について、事務局から説明をお願いします。
事務局 (企画係長)	【資料11について説明】
(質疑応答) 資料11について	
林会長	委員の皆様から質疑はありませんか。
樋山委員	10ページの政策体系図について、基本目標3「地域産業を育て、働く選択肢を広げる」の下に、商工業、水産業、農業、林業、観光交流といった個別政策が並んでいます。それらをまとめる総括的な記述がないように見えます。商工業、水産業、農業などは相互に関連しているため、基本目標3全体を総括的に整理した記述が必要ではないでしょうか。
事務局 (企画係長)	基本目標ごとに整理した記述が必要ではないかというご意見については、事前に会長・副会長との打合せでも同様の意見をいただいております。今後、基本目標ごとにまとめた内容を整理する方向で考えています。各政策には現状と課題等を記載していますが、全体量も多くなるため、基本目標単位である程度まとめた形で整理したいと考えています。
中島委員	資料10では「幸せの4つの因子」として説明されており、資料11では「幸福を感じる4つの要素」として分かりやすく言い換えたという説明がありました。この4つの因子と4つの要素の関連性について、分かりやすく説明していただきたいです。

	また、全国平均との比較について、全国調査は1万5千人規模である一方、浜田市のアンケートは現時点で回収率34%とのことでした。どの程度の回答数があれば、全国平均との比較や市民全体の傾向把握として妥当と考えているのでしょうか。 さらに、小中学生へのアンケートはホームルーム等で実施したと聞いていますが、それなら回収率がもう少し高くてもよいのではないかと感じます。回収率が現在の水準にとどまった理由をお聞かせください。
事務局 (企画係長)	資料10の4つの因子と資料11の4つの要素は対応しています。「やってみよう因子」は「挑戦し、成長できること」、「ありがとう因子」は「人とのつながりを感じられること」、「なんとかなる因子」は「前向きに暮らせること」、「ありのまま因子」は「自分らしく暮らせること」に対応しています。「因子」という言葉は学術的で市民に伝わりにくい面があるため、基本計画では分かりやすい表現に置き換えています。
事務局 (さとゆめ)	回答数の妥当性については、現時点の514サンプルでも、浜田市全体に対してアンケートを実施した場合の回答とのずれ、いわゆる標本誤差は5%未満に収まる計算です。資料10の2ページにも標本誤差を示しており、514サンプル時点で4.3%程度となっています。そのため、調査上は一定の妥当性があると考えています。
事務局 (政策企画課長)	小中学校アンケートについては、学校によって実施方法が異なっています。ホームルーム等で市から依頼があるため一斉に回答する形で実施していただいた学校もあれば、回答依頼を周知し、各自で回答する形となった学校もあります。そのため、学校によって回収率に差が出ていると考えています。
事務局 (さとゆめ)	小学生についても標本誤差は5%以内に収まっており、サンプル調査としては一定の妥当性が得られていると考えています。
栗栖委員	資料11の政策別計画について、12ページ以降の子どもに関わる部分の記載が、現時点ではかなりちぐはぐに見えます。今後どの段階で、いつまでにこれは直してほしいという意見を出せばよいのでしょうか。 現在は、子どもを客体ではなく権利主体として見るのが重要になっている中で「健全育成」という言葉はかなり古い印象があります。また、「子どもを安心して産み育てる環境づくり」の中に、なぜか子どもの権利のことが書かれている点にも違和感があります。こども計画を踏まえて整理すれば、記載の仕方も変わるのではないかと感じています。
事務局 (政策企画課長)	政策別計画の内容については、基本的には審議会でもいただいた意見を反映していきたいと考えています。子育て関係であれば健康福祉部等の担当部署が内容を整理しているため、今後、各担当部署とも調整しながら修正を進めます。 ご意見は、担当課へ直接伝えていただいても構いませんし、あるいは事務局を通していただければ、随時各担当部署とすり合わせながら進めます。気づいた点があれば、今月中のところでご意見をいただければと思います。また改めて皆さんに案内をさせていただきます。

栗栖委員	今回、浜田市として幸福度を掲げていますが、資料 11 の政策別計画を見ると、各施策と幸福度とのつながりが分かりにくいと感じます。特に子どもに関しては、こども家庭庁が「こどもがまんなかの社会」ということで子どものウェルビーイングということをやっているといるため、子どものウェルビーイングという視点から、主要施策の書きぶりを考える必要があると思います。最終的にこの施策がどうウェルビーイングとつながっているのかということがあまり見えないと感じます。 前期計画では SDGs のロゴが多く貼られていましたが、それが具体的にどう施策に結びついたのかが見えにくかった面もあります。「すべての人に質の高い教育を」と貼ったのに、不登校は増えているわけです。同じように、幸福度の話と具体的な施策が十分に結びついていないと、これまでのアウトプット中心の整理とあまり変わらない印象になります。 各施策がどのようにウェルビーイングにつながるのか、市民が実感できるような施策の整理が必要だと思います。 例えば、子どもが意見を聞かれる機会が増えることは、子どもの幸福度につながるというデータが出ています。その場合、「健全育成」ではなく、子どもが権利主体として意見を聞かれて、その意見が反映されるという経験を持つ子どもが増えることがウェルビーイングにつながる、という考え方を施策に反映してほしいです。
事務局 (政策企画課長)	ご指摘のとおり、現在示している目標や施策のすべてが、最上位に掲げる幸福度と十分に結びついているとは言い切れない面があると認識しています。 今後は、何を実施したかという視点だけではなく、実施した結果、子育てや暮らしにどのような変化が生じ、それが幸福度にどのようにつながるのかという観点で、目標設定を精査する必要があります。現在掲げている各施策についても、幸福度につながる内容となるよう修正していく必要があると考えています。今後整理した上で改めてお示しし、ご意見をいただきたいと思います。
林会長	資料 11 の 7 ページ、8 ページにある横断的政策手段について意見があります。横断的政策手段と言うと少しずれるかもしれませんが、昨日、ある団体の会合で、地域課題への対応には、石見地域全体として取り組んでいかねばならないという、近隣市町との広域連携の必要性を強く語られました。三浦市長もそのようなお考えであると認識しております。なかなか個別自治体の総合振興計画には書きにくい面もあるかもしれませんが、広域連携の視点をどこかに位置づけることはできないでしょうか。
事務局 (政策企画課長)	市長も申し上げているように、近隣市町との広域連携は重要な視点です。現在も、観光や公共施設など、主要施策の中で広域連携的に進める内容をいくつか記載しています。横断的政策手段にこうした要素を加えるかどうかについては、検討させていただきます。
檣山委員	会長のおっしゃった広域連携は非常に重要な観点だと思います。商工会議所でも、大田から益田までの 4 つの商工会議所が連携して動かなければ、誰にも相手にしてもらえないという考えがあります。今、年 2 回ほど、4 つの会議所で集まり、広

	島への観光関係などについて協議を行っています。そうした観点もどこかに入れていただけると非常にありがたいです。
林会長	ありがとうございます。ご検討いただければと思います。ほかにございませんか。
白瀬委員	市民アンケートの分析結果では、サードプレイスの有無が幸福度に影響しているということでした。一方で、大人のサードプレイスを担うような政策が見当たらないのではと思うので、どのようにお考えでしょうか。横断的政策として、どのように位置づけていくのかお伺いしたいです。
事務局 (政策企画課長)	サードプレイスが幸福度に影響しているという結果は確認しています。現時点の計画では、子ども・子育て関係の主要施策として居場所づくりという観点で掲載していますが、大人のサードプレイスについては、まだ十分に整理できていないところがあります。今回の結果を踏まえ、大人の居場所づくりをどのように掲載できるか検討します。
林会長	これから肉付けをされて、形が整っていくと思いますが、それに先立って委員の皆様からまたご意見をいただければと思いますのでどうぞよろしくお願いします。
人口ビジョンについて【参考資料2】	
林会長	それでは、参考資料2について説明をお願いします。
事務局 (さとゆめ)	【参考資料2について説明】
林会長	ただいまの説明について、質問はありますか。 【意見なし】 特にないようですので、全体を通してご意見・ご質問はありませんか。
(質疑応答) 全体を通して	
中野委員	参考資料3のシンポジウム「浜田の未来をみんなと語る日」について質問します。3時間15分の予定で、裏面を見ると県立大学の学生や事業者さん等が登壇されるようですが、パネルディスカッションが3つある中で、参加者はどのような形で関わり、意見を出すのでしょうか。アンケート等で意見を収集することを想定しているのでしょうか。 また、当初は石中央文化ホールでの開催と聞いていましたが、島根県立大学のコンベンションホールに会場が変更になった理由についても確認したいです。併せて、今回のターゲットや、どのような方に来ていただく想定なのかを教えてください。
事務局 (さとゆめ)	パネルディスカッションの登壇者については、1つ目の「学生、子どもたちと考える浜田の未来」では、こどもワークショップに参加した学生を中心に登壇いただく予定です。2つ目の「外から見る浜田らしさ」では、浜田市外出身であり現在浜田で事業をされている方、農業等に従事されている方、地域おこし協力隊の方など、分野ごとに候補者を整理してお声がけしています。3つ目の「内から見る浜田らしさ」では、浜田市出身の方を中心に、協力隊、神楽、農業等に関わっている方などから登壇いただく予定です。

	参加者とのコミュニケーションについては、会場に来られた方に色紙を配布し、「浜田市の未来についてイメージが湧きましたか」といった問いかけに対して、色紙を掲げていただく形を想定しています。 会場変更については、集客規模を考慮し、石中央文化ホールでは会場規模が大きすぎると判断したため、島根県立大学に変更しました。 ターゲット、誰を呼ぶのかについては、特定の層に限定するものではなく、市民の皆様を対象としています。チラシやポスターについても、道の駅などさまざまな場所に設置・掲示する予定です。
林会長	そのほかご意見はありますか。 【意見なし】 ないようですので、事務連絡をお願いします。
2 今後の予定	
3 その他	
事務局 (企画係長)	次回、第4回浜田市総合振興計画審議会は、9月28日（月）に、同時間・同会場で開催予定です。正式な案内については、改めて送付します。 参考資料3のシンポジウムチラシについては、先ほどご説明させていただきましたので再度の説明は省略します。
▽閉 会	
林会長	以上をもちまして、第3回浜田市総合振興計画審議会を終了します。お疲れさまでした。